

① 「会釈（えしゃく）」

職場の廊下で別の部署の同僚とすれ違う時に、特に言葉を交わすことなく、軽く頭を下げて挨拶をします。

この、軽い挨拶のことを「会釈する」といいますね。

また「会釈」には、「思いやり」という意味もあります。「遠慮会釈もない」という言い方がありますが「遠慮も思いやりもない」ということになります。

いずれにしても、「会釈」は、相手への配慮を表す言葉として使われます。

この「会釈」は、もともと仏教の言葉です。

仏教は、「八万四千の法門」つまり無数といえるほど多くの教えの入り口がある、と言われていています。それらたくさんの教えどうしを照らし合わせ、異なるように見える内容や表現を調整し、矛盾のないように説明することを「会釈」といいます。

異なった表現をとる多くの教えを、柔軟に合わせてまとめていくという、仏教語としての「会釈」の意味が、「人と人との調和をはかる」という意味を持つようになり、やがて「軽い挨拶」や「思いやり」といった、現在の意味になっていったと考えられます。

② 「発行（はっこう）」

本や雑誌などの印刷物を世に出すことを「発行」といいますが、もとは仏教の言葉で、「ほつぎょう」と読みます。

この「ほつぎょう」には、いくつかの意味があります。

一つめは、僧侶が心を決めて修行をすること。

二つめは、行動をおこすこと。

三つめは、隠れていた素質が、はたらきとなって実際に現れること。

そして、本や雑誌は、書き手や作り手が心を決めて、内容を練り、文章を書き誌面を作るという行動をおこし、そこに書き手の隠れていた心が現れてくるのです。

仏教語「ほつぎょう」が、本や雑誌などを世に出すことをあらわす「発行」と言う言葉になったのは、このような共通した意味合いがあったからではないでしょうか。